

P=ポイント

国 内		県 内	
1日	<b>日銀短観 大企業製造業の景況感2四半期ぶり改善</b> 日銀が発表した6月の全国企業短期経済観測調査(短観)で、大企業製造業の景況感を示す業況判断指数(DI)は、前回2025年3月調査(プラス12)から小幅に改善しプラス13だった。	1日	<b>県内路線価2年連続上昇「橘通り」33年ぶりプラス</b> 2025年1月1日時点の路線価が公表され、県内の標準宅地の平均変動率は前年比0.4%増となり、2年連続の上昇。県内最高値となった宮崎市橘通西3丁目「橘通り」は、33年ぶりにプラスに転じた。
2日	<b>2024年度税込、過去最高75兆円</b> 財務省が発表した、2024年度の国の一般会計税込は、75兆2,320億円と5年連続で過去最高を更新。企業業績の拡大で、消費税や法人税の税収が伸びたことなどが要因。	8日	<b>県内倒産 過去10年間で最多</b> 東京商工リサーチ宮崎支店の2025年上半年(1~6月)の県内企業倒産状況(負債額1,000万円以上)によると、倒産件数は29件、負債総額は37億9,300万円で、過去10年間で件数は最多だった。
3日	<b>大手企業の夏ボーナス99万円、1次集計で過去最高</b> 経団連が発表した大手企業の2025年夏季賞与(ボーナス)1次集計によると、18業種107社の平均妥結額は99万848円となり、前年比4.37%増加。プラスは4年連続で、1次集計としては1981年以降で最高額。	11日	<b>国産牛肉、対中輸出再開へ 本県関係者期待の声</b> 外務省は、日本産牛肉の対中輸出再開に必要となる「日中動物衛生検疫協定」が発効したと発表。本県関係者からは、今後の中国向け需要の高まりに期待したいとの声。
8日	<b>6月の街角景気、2カ月連続改善 暑さで夏物消費好調</b> 内閣府が発表した6月の景気ウォッチャー調査(街角景気)によると、現状の判断指数(季節調整値)は前月比0.6P上昇して45.0となり、2カ月連続の上昇。暑くなったことで夏物消費が好調だったことなどが要因。	14日	<b>宮交、鹿児島空港線高速バス運行</b> 宮崎交通は、宮崎市と鹿児島空港(鹿児島県霧島市)を結ぶ高速バス「マンゴーライナー」の実証運行を開始。国際線の便数が多い鹿児島空港への移動手段の充実を図る。
15日	<b>長期金利上昇一時1.595% 17年ぶり高水準</b> 国債市場で長期金利が一時1.595%に上昇し、リーマン・ショック直後の2008年10月以来の高水準を付けた。参院選で各党の政策が財政悪化につながる懸念が強まり、国債が売られたことが要因。	20日	<b>参院選宮崎選挙区 山内佳菜子氏が初当選</b> 20日投開票の参院選宮崎選挙区(改選数1)は、新人の山内佳菜子氏が初当選。物価高対策や、超高齢化社会でも安心して暮らせる故郷づくりに取り組んでいく。
18日	<b>6月消費者物価3.3%上昇 食料品高が家計圧迫</b> 6月の消費者物価指数(CPI、2020年=100)は変動の大きい生鮮食品を除く総合が111.4となり、前年同月比3.3%上昇。ガソリン価格の抑制などで伸びは鈍化したものの、幅広い食料品の値上がりがかつての家計を圧迫。	22日	<b>新燃岳噴火1カ月 観光、宿泊 風評で打撃</b> 霧島連山・新燃岳が噴火してから22日で1カ月が経過。麓の高原町には目立った降灰の被害は見られない一方、通常営業を続ける観光・レジャーや宿泊業では風評による客数減やキャンセルが発生。
23日	<b>車・相互関税15%に税率引き下げ 日米合意</b> 日米両政府は関税交渉で合意。幅広い品目にかかる相互関税を15%に引き下げる。また自動車関税を半減させ、既存の関税2.5%と合わせて計15%とする。	23日	<b>本県とモンゴル、チャーター便就航 交流促進に期待</b> 本県とモンゴルを結ぶ直行チャーター便が初めて就航。東京都の旅行会社「たびりずむ」が企画し、同国の航空会社「フンヌ・エア」が運航。今後、交流の活性化などに期待。
30日	<b>ロシア・カムチャツカ付近で地震発生 各交通機関に影響</b> ロシア・カムチャツカ半島付近を震源とする地震が発生し、太平洋側を中心に津波警報と津波注意報が発令。沿岸部の在来線の運転見合わせや、一部航空便の欠航など交通機関にも影響が及んだ。	29日	<b>スギ丸太生産、34年連続日本一</b> 農林水産省が公表した2024年木材統計で、本県のスギ素材(丸太)の生産量が172万8,000立方メートルとなり、34年連続で日本一。ただし、木材需要の落ち込みにより、生産量は3年連続の減少。